

# ぶらり瓢箪

見知らぬ飯場で一飯の恩

飯場は見えたこともない土方がきて、「飯を食わしてくわしや」と云うことがある。歩き続け、腹が減り金も無いときがある。どういうわけか金が無いときは腹が減りやすい。困り果てた末に飯場があらば夕方の飯の相談をするわけである。いまの飯場はどうかかわらないか、昔の飯場はそんなときはどこでも一食なら飯前よく食わしていた。一人でなく三人ぐらゐるときもある。その内の一人が代表で交渉をする。話が済めば後の二人がゾロゾロ入ってくる。

いまから二十年前か、わしは一人で豊中市の田んぼ道を歩いていった。どういふ事情でどこからどこへ歩くのが思ひ出せない。腹が減り金を無かった。そんなとき丁度よい貝台

ほらこい。そ、たいない。くそくらえ。一〇番される恐れもある。飯の代りに箸棒はありがたくない。注意しよう。センターから行く飯場は朝もくを食わすところがあるが、それと意味が違う。

## 釜の米屋

釜には米屋が四軒はある。どこの米屋も二合三合五合入りの袋を置いてあった。労働者が買つのに便利であつた。古新聞に包んであつても何か人情味がある。ところがいまは五合入りの袋を置いてあつるのは靴之茶屋商店街の米屋一軒だけになった。二合三合は姿を消した。西成署に近い米屋は、五合は売らん、一升なら売ると高姿勢である。いくら西成署に近くても高姿勢はあんまりや。センターに近い米屋はこちらから左のめば三合でも売ってくれた。そう一軒は労働者に米を盗まれないように店に犬をつないでるので、二合三合どころではない。いずみや附近の市場はいまでも五合入りの袋を置いてあつる米屋があ

いに飯場を見つけて飯の相談をしたことがある。土ちも親方も仕事に出た後か飯たき女が一人いた。飯前よく食わしてくれた。台の上にはトンガラシが大きな入れ物に入っていた。食った後で自分の汚れたトンフリを洗ひれを云って飯場を出た。大きな声で「ちよっと、ちよ、と」と云う声が出た。振り向くと飯たき女が呼んでいた。「これをバス代にこなさい」と云って小銭をくれた。停留所はあり向うだと云っておこえてくれた。バス代で鬼に出たが、淀川で一泊を明かして尼ヶ崎を目標に歩いていったが道を間違えて豊中市の方へきていた。

いまの飯場の飯たき女はパートタイムをいって味気ないが、その頃の飯たき女は土方退世ま心得ているのが親切であつた。親切という言葉は日本語でなくなつたのかいまはあまりきかない。せちがらい世の中。いまの物価高の時代に飯場へ行つて夕飯の相談をすればあ

る。あの頃はアパート暮らしの労働者も多い。靴之茶屋商店街の米屋が定休日ときは、いずみや附近の市場に買い出しに行く労働者もいる。大の男が米五合の買い出しとはなさけないが、これも労働者の宿命か。

## 千円の値打

飯屋の飯も盛りが少なくなつた。大めちで女学生が食つてしまふ。林美子の「放浪記」ではないが大の男があれで腹が張るのかと思うことがある。みそ汁も水くさい。塩もあくなつたのか。フツク、云いたい。時代の流れは労働者を置き去りにして後に残つたものは物価高だけ。福田内閣西成支部も始末が悪い。飯屋の前でガラスの中にならんたおがずの値段を見、なが思案する風景は涙ぐましい。労働者なら一度はあるはずだ。小銭では心細い。いまの飯屋は千円ぐらゐは金月内に入らんのかいやな顔で出す。一万円なら歓迎する。ところがそんな懐草を持つ労働者は少ない。懐に入らん物は路店で二足三文で売って飯代



をつくることがある。ありすぎる。飯代に困るときはたばこ代にもろ自由と決っている。十年前なら千円もあれば大船に乗ったつもりで心強かったが、いまは心細い。飯を食ってたばこを買えば残金は少ない。いまの千円ぐらいい値打の無いものはない。それでも千円あると無いでは大違い。神聖で犯すべからず。前は西成職安の入口に拾ったタバコの巻き玉は一枚のタバコを売るおばさんがいたが、いまはいない。失業対策としてタバコの分け売りの自動販売機はできないものか。福田首相

めこのことで思ひ出したが、貧乏人は麦を食え」と云った人がある。吉田内閣当時の大蔵大臣池田勇人。けしからん政治家である。このオッサンは經濟學のとき高知の町で、トラツクの荷台に乗ってハンケチを振りながら連呼しているのを見たことがある。選挙のときは、貧乏人は麦を食え」の旗でなく、戒さ

日本一安いメシ屋紹介

水を入れて倍にして飲んでいた。「グラマン  
一合頂だい」と云うのが子供ながらも妙にい  
やであつた。たしか一合四十円であつたか。  
いまから考えても安い。無税。  
西成は賤酌という言葉がない。賤まで待て  
ん。

(土佐隼)

(土佐藩)

いま北から南まで、全国で一番安い「めし屋」は「はんだや」と思う。仙台駅前「ジャンジャン横丁」と国分町に店を持ち、値段は二三年前変わっていない。

中めし60円へ中は大の大盛、朝又キで振  
り寄問だったところでもこれで満腹でさる  
大めしー代は書いてないへ、食てきれない  
と朱書で断わりがある。ちなみに70円  
オカズ一品50円へ煮魚、フライ、玉子焼、  
めた、納豆、冷奴、ライオンナーなどなど  
ミソ汁40円へめし井にクツアリ入っている

んも顔負けするよい顔であつた。高知は吉田  
茂の選挙区で池田重人の他に目玉の佐藤栄作  
も応援によくきていたので、いざでも見かけ  
た。自由党のほうは軽井行機から大連にばら  
まかれていた。知事から市長とれに警備隊長  
までが自由党でどの名の通り自由党王国であ  
つた。

その外に密造酒王国でもあった。当時の国  
税局発表の密造酒概算日本一が高知であった。  
発見されないように隠たんぼに入れて大阪方  
面に売りに行く名人が多くいた。密造酒は無  
税であるのでありがたし。庶民に歓迎される。  
わくの父親は晩年に密造酒をのんでいたので  
よく使いた行かされた。密造酒は暗号代りに  
別名があった。わくが知っている密造酒商人  
はある日、グラマンと名付けた。戦争中の  
米空軍の花形戦闘機からヒントを得ている。  
いまならロッキードか。密造酒は度が強くマ  
ツキで火を付ければ燃える。のちときは必ず

味は辛く、おせむにそうまいとは言えな  
い。陸中海岸でとれた？くずコンブ入り  
オカズ小品 30円へ塩辛、つけもの、梅ぼし  
生玉子など)

持ち金にヨエウのない人は小めし、塩辛80  
円で済ませる。其系は飲み放題だから。塩辛  
茶づけもあるいは、梅茶づけもできるわけだ。  
笑い話になうが国分町の店で、食できりな  
い。という大めしに挑戦したこ  
とかある。オバさんの話ではめ  
ったに大めしを注文する人はい  
ないそうだ。そんな話をしながら盛ってく  
たものは超ド級のめしの山、死ぬ覚悟でめ  
しの山にパクついたものの最後に仕腹はパンク  
寸前だった。

ただ、はんだやし、釜ヶ崎のつめく屋とちがう点は、デパート群と中央通りというハシカ街に位置し、その小さな長さの路地（ジヤンジャン横丁）はサウリーマンもおれが学生もいること。国外飯店が盛りの入口に見たり、バーテン・ホステスやタモリ館に利用してはいるが、釜ヶ崎の肉店、魚店、生活圏とはおのずからちがふ。

（工青年）



# 川崎通信 No. 4

C.M  
仕事は手配師を通り  
していいおせ!

橋の下にもアオカシしている

多摩川

川崎競馬  
ここに  
ドヤ銭あり  
テニスコート  
富士見公園

川崎競馬  
川崎競馬  
ドヤ  
月夜  
食堂の味は最高  
アオカシ多い

爺々山のみなさん爺でヤバイ時  
には川崎で働きましょう。

単価良し、ドヤも良し、ポリ公良し  
ギャンブル場も多い。トルコキャバ  
レー女も多い。川崎で男を上げる  
爺労働者かんげい!

川崎通配師

品川  
ドヤ  
(田舎な感じ)  
ドヤ銭  
700円  
六郷土手  
京浜川崎

国電

トルコ街  
場之内  
スナック

京浜川崎

ケツオチ子  
ドヤ銭  
700円

川崎

日進町

ドヤ銭  
700円  
ドヤ銭  
700円

ハ丁

特に馬鹿されやすい人大歓迎

横浜

所があつたけど、  
東京では細い道  
を通たり、お店

へ食堂、小じんまり  
した店の中金に

かえます。私個人としては、大阪のフロパチ  
はめぐまれていると思う。やはりパチンコは  
関西が一番だと思えます。以上

川崎通信 No. 2  
パチンコについて  
大阪ではパチンコ玉一個について金にかえ  
る時約2円キョトでしたが、東京では1円田、